

University of Shizuoka Magazine

静岡県立大学広報誌

No.130

2015. October

はばたき

特集

「地域とともに育てる」
COC事業サテライトの紹介・プロジェクト報告

キャンパストピックス

短期大学部こども学科を開設
グローバル地域センター3周年

地域・産学連携

グルテンフリーの米粉パンミックスを
企業と共同開発
島田市と包括連携協定を締結

CONTENTS

- p01 **・特集**
地域とともに育てる

- p05 **・キャンパスピックアップ**
短期大学部にこども学科開設
グローバル地域センター開所3周年
絵本による能「羽衣」の普及活動
オープンキャンパス
奨学金授与式の報告 ほか

- p11 **・研究室訪問**
看護学部
井上健一郎 教授
三崎健太郎 助教

- p12 **・学生の日々**
テニス大会 星・木苗杯

- p13 **・地域・産学連携**
共同開発「米粉パンミックス」
島田市との包括連携協定

- p15 **・図書館だより**
図書館からのお知らせ
シリーズ 「私の一冊の本」

- p16 **・活躍する卒業生**
食品栄養科学部・研究科

- p17 **・連載**
フードマネジメント研究室レシピ連載

- p18 **・Informaiton**
教員人事／受賞一覧



表紙写真:食品栄養科学部棟から
はばたき棟への通路

特集

地域とともに育てる

今年の春から本格始動した、大学COC事業「ふじのくに「からだ・ところ・地域」の健康を担う人材育成拠点」。本学と連携する地域のサテライトがスタートし、学生や教員が地域を訪れ、フィールドワークやワークショップを開催するなど、活動が動き出しています。今号の特集では、地域の課題を解決する人材の育成のために、大学と地域がどのように連携しているのか、大学が地域で何に取り組んでいるのか、本事業の活動実態に迫ります。

大学COC事業とは？

「地(知)の拠点整備事業(大学COC*事業)」…平成25年度から始まった、文部科学省の事業です。自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした事業です。

*COCとは Center of community の略称



地域の課題と人材育成拠点づくり

本事業では、静岡県、静岡市、牧之原市と連携し、地域の課題に取り組むため、学内に地域と大学の橋渡しを担う事業統括機関「『ふじのくに』みらい共育センター」を開設しました（26年10月）。これに続き、連携する静岡市と牧之原市には、自治体との共同運営で「みらい交流サテライト」を設置し、活動準備が行われています。



地域の課題

静岡市 (人口703,724人)	・政令指定都市で最も人口流出が多い ・魅力的なまちづくりによる若年層の定着
牧之原市 (人口45,458人)	・沿岸部自治体の典型 南海トラフ大地震の心配、転出者が多い ・後継者不足による地域産業（茶業を含む）の低迷
静岡県 (人口3,682,833人)	・健康寿命(H22年度全国第1位)のさらなる延伸 ・少子高齢化と産業の空洞化

※人口は静岡県「平成27年8月市町別推計人口」より出典

▶サテライトって？

静岡県立大学 静岡みらい交流サテライト・牧之原みらい交流サテライト（通称：静岡サテライト・牧之原サテライト）は、本学と連携自治体である、静岡市・牧之原市との共同運営のもと設置されました。自治体や地域住民の方々との連携拠点とし、地域

課題解決を図るための教育・研究・社会貢献の実践的活動を行っていく場所です。

▶コーディネーターって？

地域連携コーディネーターとは、大学と自治体・企業・NPO 団体、地域住民等を結ぶ橋渡的存在。地域連携コーディネ

ーターがサテライトに常駐し、サテライトでの活動により地域に埋もれている様々な地域資源や時代のニーズの掘り起こしと収集をし、大学教員とテーマのマッチングを行うほか、テーマに沿ったワークショップの企画運営を行います。

サテライトキックオフ開催報告

牧之原市



7月12日（日）、牧之原市の協力のもと同市に本学のサテライトを開設したことを記念し、キックオフ・イベントを開催しました。「人をつくり 未来をつくる in 牧之原」と題し、人口減少など地域が抱える課題に関する講演やワークショップを行いました。第1部のトークセッションでは、西原茂樹市長、鬼頭宏学長、合田敏尚みらい共育センター長らの講演の後、牧之

原出身の学生を交えて市長・学長とのパネルディスカッションを行いました。

第2部のワークショップでは、本学の学生が進行役を務め、「市民と大学が一緒になってできることとは」と題し、地域の人々と学生や教職員など参加者約100人が、牧之原市の魅力や、大学と地域が連携することによる生まれる可能性を、オープンな雰囲気です話し合いました。

静岡市



8月8日（土）、静岡市とのCOC 静岡サテライト事業のキックオフとして、人口減少問題を考える鬼頭学長の特別講義とパネルディスカッションを開催しました。特別講義は「人口減少にどう立ち向かうか?」というテーマで、鬼頭学長の専門分野である歴史人口学を軸に、人口減少対策の課題について深く掘り下げた90分となりました。

パネルディスカッションでは、パネリストに

静岡市人口減少対策室長 宮城島清也氏、静岡市女性会館館長 川村美智氏を迎え、鬼頭学長と人口減少問題プロジェクトWGリーダーの西野勝明教授（みらい共育センター 副センター長）を交え、宮城島氏より静岡市の人口減少の現状について伺うとともに、新しい社会モデルの在り方について忌憚のない意見交換が交わされました。

プロジェクトワーキンググループ(WG)の紹介

地域が抱える課題は、複合的な要素が絡み合っています。課題の明確化と、COC 事業の具現化をめざし、職種・分野・立場を超えた3つのプロジェクトワーキンググループ（WG）を立ち上げました。全学の教職員・学生にプロジェクトへの参加を呼びかけ、各ワーキンググループで、教員と学生が協働して活動が行っています。

■健康づくりプロジェクトWG



健康寿命の延伸と「健康長寿文化」の創成 リーダー:合田敏尚教授 参加者:30名(学生7名)

健康づくりプロジェクトWGでは、地域における包括的なヘルスケアの基盤を支える人材の共育をめざし、医療・福祉従事者等の多職種連携を推進しています。今年度は、しずおか学科目*「静岡の健康長寿を支える仕組みと人々」「静岡の防災と医療」を実践に生かすべく、学部横断演習科目「静岡救命連携演習」(7/26-31)、「多職種連携演習 - 高齢者の口腔機能」(9/30)

を実施しました。また、静岡における在宅ケアに関する多職種連携研修会のワークショップを企画・運営(7/12)するとともに、牧之原市健康推進課との協働により、同市生きがいリーダー連絡協議会を対象に、健康づくり人材育成講座(9/2)を行いました。地域ヘルスケアを支える人材の育成支援が始まっています。

*しずおか学...静岡に特化した地域の文化や産業等を学び、地域を愛し、地域に貢献するマインドを醸成することを目的とした授業科目群

■人口減少問題プロジェクトWG

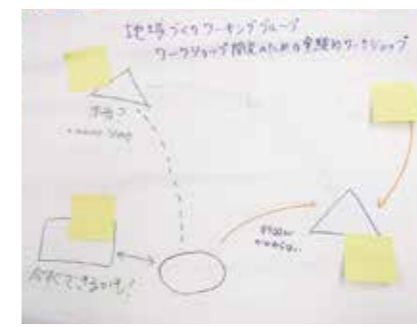


人口の自然減対策、社会減対策の考案 リーダー:西野勝明教授 参加者:20名(学生8名)

人口減少問題プロジェクトWGは、静岡県との協議の結果、インパクトのある市町レベルの人口減少対策を見出すこととなり、伊豆市と島田市をモデル地区として2つのプロジェクトを開始しています。伊豆市では育児支援を中心とする対策が主なテーマで、8月に市民、市職員、教員、学生によるワークショップを開催しました。島田市では、社会移動に着目し、転入・転出の要

因調査と、転入者の増、転出者の減をもたらすために市のQOL（生活の質）指標の開発など、ポジティブ情報の作成・発信をテーマにしています。8月に市職員、教員、学生による研究会を開催しました。今後、両プロジェクトではワークショップやフィールドワークを行い、年度内に最初の提言等をまとめる予定です。

■地域づくりプロジェクトWG



持続可能な誰をも排除しない社会をつくる リーダー:津富宏教授 参加者:28名(学生14名)

地域づくりプロジェクトWGでは、地域住民が主体となり、知恵を寄せ合って住みたい地域をつくるための手だてを実践しうる学生を育てるため、二つの課題に取り組んでいます。一つは、これまで多くの教員が研究活動等を通して築いてきた地域との関わりを、学生と共有することを目的とした「地域づくりの理論（平成27年度後期開講）」の授業を行い、その成果を検証します。成果とは、この授業を受けた学生が地域づく

りに「取り組みたい!」という気持ちになることを示します。

もう一つは、地域づくりのためのワークショップの開発です。地域における個別課題を解くためのワークショップはありますが、地域を丸ごと「生態系」として捉えるワークショップはほとんどありません。そこで、地域を丸ごと捉えて改善するための、ワークショップを開発しようという試みを行います。

各プロジェクトの活動は「ふじのくに」みらい共育センターのサイトで報告していきます。 <http://coc.u-shizuoka-ken.ac.jp>

短期大学部に「こども学科」が新たに誕生 平成28年4月に開設

短期大学部では、新学科「こども学科」を平成28年度に開設します。この度8月に文部科学省から学科設置が認可されました。国の子ども・子育て新制度の施行によって、幼稚園と保育所の機能を併せ持った幼保連携型認定こども園が増加していることなどの背景から、同園で必要とされる幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が同時に取得できる学科を新設するものです。2年課程で定員は30名です。少人数クラスで保育・幼児教育の専門知識と実践能力を身に付

け、自ら学び続けることのできる保育者の養成を目指しています。

入学定員：30人
教育課程：2年課程

*こども学科新設に伴い、保育士養成課程がある社会福祉学科社会福祉専攻の定員をこれまでの50人から20人に減員します。

取得可能な資格・免許

- ・保育士資格
- ・幼稚園教諭二種免許状
- ・社会福祉主事任用資格

卒業後の進路(予定)

- ・保育園
- ・幼稚園
- ・認定こども園
- ・児童福祉施設(児童養護施設、乳児院、知的障害児施設等)

グローバル地域センター開所3周年にあたって



意見を交換する場—サロン—を立ち上げ、そこで生まれた意見交換の成果は、地方中核都市のあり方に関する提言としてまとめ、公表しました。今年度はサロンの進め方を見直して名前も静岡懇話会と変え、より活発な意見交換ができる場づくりを進めているところです。

現在、世界の先行きは見通しがきかなくなっております。静岡県では人口が減少しています。このような中、当センターは、さらに調査研究を推し進め、国内外の専門家や県民の皆様はその成果を提供し、いささかでも日本、そして静岡県の発展に貢献してまいる所存であります。

まだまだ発展途上のセンターではありますが、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

センター長 竹内 宏



中国自動車産業研究報告会から(平成26年6月)

10月1日(木)、静岡県立大学グローバル地域センターは、開所3周年を迎えました。

これもひとえに県、大学関係者、専門家そして何よりも県民の皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

当センターは開所以来、アジア・太平洋部門と危機管理部門という2つの大きな研究の柱を掲げ、本学の研究者はもちろん、国内外の専門家の皆様との協力を得ながら、中国の自動車産業や環境問題、アジアの消費行動の多様性、地震等の

災害や原子力発電等に係る危機管理体制の整備に関する調査研究などを進めてまいりました。

その成果は、調査報告書の作成・配布、書籍出版によりできるだけ速やかに公表するほか、学内講義、一般向けの公開講座やシンポジウムの開催等を通じて、専門家だけでなく一般の皆様にも広く紹介し、多くの皆様のご意見を頂戴できるよう努めてまいりました。

また、県内の多彩な人材が、広い視点でさまざまなテーマについて自由に情報や

国際関係学部の教員と学生が絵本を用いた能「羽衣」の普及活動



国際関係学部の鈴木さやか講師と学生が、富士山とともに世界文化遺産となった三保松原が舞台の能の演目「羽衣」を、静岡の子どもたちや県内外の方々に広く知ってもらおうと、絵本「羽衣」を今年3月に発行(250部、非売品)しました。絵本は、鈴木講師と学生が本文を作成し、北九州市在住作家のなかおまき氏が作画を、観世流能楽師・観世会副理事長の山階彌右衛門氏が監修を担当し、完成に至りました。

鈴木講師は、学生12名とともに「静岡県立大学 羽衣つたえ隊」を5月に結成し、

学生による静岡県内の小学校や児童館、諸施設での読み聞かせなどの活動を7月から開始しました。

また、観光業への活用を目指し、国際関係学部のジョンソン・ディーン准教授の研究室と協力し、英語版の作成のための学生による翻訳活動にも取り組むほか、同学部の小針進教授、奈倉京子講師の協力のもと、韓国語版、中国語版の作成も進めています。

各所での読み聞かせが好評を呼び、県内の小学校等から、教育現場で活用したいと問合せが続いていることを受け、鈴木講師と

学生は「静岡の子どもたちが、「羽衣」の物語を通じて自分たちの住む地域を誇りに思ってくれたら嬉しい」と述べています。

今後は、10月3日(土)に静岡市葵区で開催される「アース(明日)カレッジ」で絵本の読み聞かせを行うほか、10月と12月にグランシップアウトリーチ事業と提携し、市内の2校の小学校で監修者の山階氏とともに講義を行う予定です。また、11月初旬には静岡新聞社より絵本「羽衣」第二刷が刊行され、書店での販売が始まります。

羽衣つたえ隊の活動の詳細はブログをご覧ください。

羽衣つたえ隊ブログ
<http://ameblo.jp/hagoromohukyu/>



児童館で読み聞かせを行う学生

平成27年度「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成週末開講講座」開講式



開講式の様子

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)は、英国で誕生した専門職であり、病気や障がいを持つ子どもが治療で感じる苦痛やストレス、不安の軽減を目的とし、遊びの力を用いて支援します。本学では、日本で初となるHPS養成教育を実施し、今年度からパイロット事業として、NPO法人ホスピタル・プ

レイ協会に委託し、週末開講講座を開講しています。この事業を通して、大学に求められている地域連携という新たな役割を果たすことができるのではないかと期待しています。

今年は、応募者21名のうち8名を受講生として迎え、子どもにやさしい医療を実現するための受講生の挑戦が始まりました。7

月25日の開講式の後には、ニューヨークバンク・ストリートカレッジのDeborah B. Vilas先生からChild Centered Playの理論と方法、思春期の子どもの専門的支援方法を学びました。Deborah先生とともに来日したメキシコ・エスポナル病院HPSのMaria Fernanda Busqueta Mendozaさんからも、病児・障がい児への専門的遊び支援についてのレクチャーを受けました。平成28年6月の修了までに、国内外から講師を招きHPSの専門的な視点、知識そして技術を学びます。



講座の様子

■ 西野ゼミが焼津市で地域活性イベントを企画・開催



運営に携わった西野ゼミの学生たち。当日はミニオープンキャンパスも行われました

経営情報学部の西野勝明教授と西野ゼミの学生が、焼津市と連携して同市内で街歩きイベントを8月に企画・開催しました。このイベントは、公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムの「ゼミ学生地域貢献推進事業」に、西野ゼミが採択されたことから、焼津市と取り組む連携プロジェクトの一環で行われました。

4月から始まった同プロジェクトでは、「若

者に選ばれるまちづくり」をテーマに、焼津市に就職・居住してもらうためのアイデアや、若者に魅力あるイベントの企画等について、ゼミ生と焼津市の若手職員の方々が意見交換や視察を重ねてきました。

ゼミ生たちは、漁業の街としての歴史や文化を地域資源と考え、焼津の風景や魅力を再発見してもらうための街歩きイベントを企画提案し、「812(やいづ)」にちなんで、

8月12日を中心に開催された同市の主催事業「YAIZU WEEK!」において、「焼津まち歩き 撮って獲って焼津魚〜キング」と題して実際に行われました。

当日は、市内外から多くの方が集まり、市内の旧跡名所や商店街などに設置されたポイントを回りながら、チームごとに得点を競いました。同日に行われた「焼津夏フェス2015」も、学生が企画運営に携わり、ファッションショーや地元出身のミュージシャンによるライブステージが行われ、焼津の夏を盛り上げました。

プロジェクトは1年をかけて進行し、学生は今後も焼津市と協議を重ね、若者が住みたいと思う理想の街の実現のための計画を策定し、実行していく予定です。



街歩きのポイントスタッフをする学生。焼津市のマスコットやいちゃん

ていることを受け、学生部と国際関係学部キャリア支援委員会が共催で開きました。大学生らでつくる労働組合「ブラックバイトユニオン」代表の渡辺寛人さんを講師に招き、「辞意を伝えたのに辞めさせてもらえない」「塾講師の授業以外の労働に対する賃金が支払われない」「自社商品を自腹で買い取られる」といった実際のトラブルを挙げ、労働法の基礎知識のほか、労働条件を書面で確認することや、労働時間を記録しておくこと、いざというときの相談窓口など、具体的な対処方法を学びました。

講演を企画した学生部長の小針進教授(国際関係学部)は参加した学生に対し、「周囲にブラックバイトで悩みを抱えている学生がいたら解決方法があることを伝えて」と述べました。

講演を企画した学生部長の小針進教授(国際関係学部)は参加した学生に対し、「周囲にブラックバイトで悩みを抱えている学生がいたら解決方法があることを伝えて」と述べました。

■ ブラックバイト特別講演



渡辺さんの話を真剣に聞く学生たち

学業に支障を来すほどのノルマや長時間労働を学生に強いる「ブラックバイト」の実態や対処方法を学生自身に知ってもらうため、在學生を対象とした特別講演を、7

月17日(金)に行いました。「ブラックバイトの対処法—バイト先のトラブルから身を守るために」と題した同講演は、ブラックバイトが深刻な社会問題となっ

■ オープンキャンパス2015開催



全日程とも快晴となりました



オリエンテーションでは学部概要や入試説明を行いました

8月6日(木)から12日(水)までの5日間にわたり、オープンキャンパス2015を開催しました。

今年も高校生や保護者など、約4000名の参加者で賑わいました。学部や学生生活の紹介、在學生との懇談会、キャン

パスツアー、模擬授業などを通して、本学の魅力が伝わるよう、各学部が趣向を凝らしたプログラムを実施しました。

参加者が学生と直接接することで、大学生活をよりイメージしやすいものとするため、国際関係学部では、企画・運営を学生たちが中心となって行ったほか、看護学部では、防災ボランティアサークル「防'Z」による救命救急講習が行われました。また、国際関係学部では保護者向け説明会を開催し、保護者の方にも本学の魅力が伝わるようPRしました。

更に8月21日(金)には、オープンキャンパスに参加できない入学希望者を対象とした夏季大学説明会を実施し、約600名の方にご参加いただきました。

オープンキャンパスのアンケートでは、「在學生と交流できて良かった」「志願したい気持ちがより一層強くなった」など、たくさんの嬉しいお声をいただくことができました。



国際関係学部の留学トークライブ



食品栄養科学部の在學生との対談企画



看護学部の防'Zによる救命救急講習



経営情報学部の研究室等を巡るスタンプラリー



薬学部の模擬薬局等の学内見学

“県民の日事業”を実施

明治9年8月21日に現在の静岡県が誕生したことちなんだ、県内各地で様々なイベントが催される「県民の日」に、本学では谷田と小鹿の両キャンパスで、大学施設を一般の方に開放し、施設見学や体験イベントを開催しました。夏休みを利用して、県内外から多くの方に参加いただきました。

谷田キャンパス
夏休み県大ツアー 2015

谷田の夏休み県大ツアーには約130名の方が参加しました。講義室や図書館といった学内施設を見学しながら、薬学部や食品栄養科学部では化学実験や生物の観察、国際関係学部では海外の文化体験といった、各学部の特色を打ち出した見学プログラムを通して大学の魅力に触れました。



国際関係学部「アフリカに会おう」

小鹿キャンパス 健康フェア

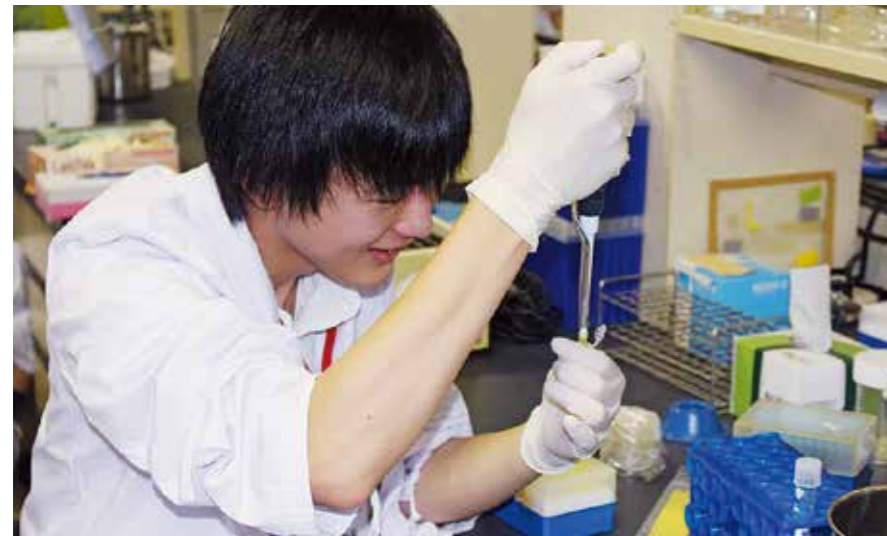
小鹿では、短期大学部において健康フェアと入試説明会を行いました。健康フェアでは、来られた県民の方の身長や血圧だけでなく、体成分分析や骨密度を測定し、自らの健康度をチェックしてもらいました。医

師、看護師による健康相談や小鹿キャンパスの特色である歯科相談・食事相談・介護相談を行って県民の健康保持に貢献しました。



健康フェアの健康測定「骨密度」

体験してみよう!「薬を創る科学の力」“夏休みファーマカレッジ2015”開催



実験に取り組む参加者の高校生

県内高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」が、「薬を創る科学の力」をテーマに8月6日、7日の2日間にわたって開催されました。この催しは、高校生に、大学の最先端研究に用いられている設備や機器を使って薬学の最新の知識と技術に触れながら、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、17回目を迎えた今年は、応募総数158件の中から選考された79名の高校生が参加しました。

高校生たちは、白衣に身を包み、「ノー

ベル化学賞の反応を実際に体験!」「医薬品錠剤を造ってみよう!」など10の体験テーマに分かれて、教員や大学院生の指導の下、最先端機器や実験器具を実際に操作しながら、様々な実験に取り組みました。

2日目午後の報告会では、自分たちが作ったスライドを用いて、実習成果を多数の聴衆を前に発表しました。生徒同士で活発な討論が行われ、教員も驚くような鋭い質問が次々と出ました。発表会終了後には交流会が催され、2日間の体験を締めくくりました。

今回の参加者の中から、ひとりでも多くの生徒が将来薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う人材に成長してくれることを期待しています。



2日目の報告会

奨学金授与式が行われました

平成27年3月から7月までの間に奨学金授与式が執り行われました。今年度は、地域の地元企業12社から計35名の学生が奨学金をいただきました。本学では、有意義な学生生活を支援していくために、地元企業等の奨学団体の協力による各種奨学金制度を設けています。

6/16 TOKAIグループ奨学金授与



経営情報学部
4年 大嶋 龍太郎
国際関係学研究科
修士2年 窪野 真之
国際関係学研究科
修士1年 孫 伯融
薬食生命科学総合学府
博士後期1年 鳥 仁
他1名

7/30 「天野回漕店奨学金」授与式



国際関係学部
2年 KHINE MON YEE
経営情報学部
2年 宋 鵬

6/30 「静岡ガス奨学生」認定証授与式



薬学部
5年 山下 千晶
国際関係学研究科
修士1年 張 昀

3/5 「しずぎんアジア留学生奨学金」授与式

経営情報イノベーション研究科
修士2年 NGUYEN THI MY NHUNG
国際関係学部
3年 CHERRY AYE

7/28 ロッキー奨学基金

薬学部 5年 清川 千秋
経営情報学部 4年 奥山 果歩

5/20 「万城食品奨学金」授与式



国際関係学部
3年 韓 佳和

6/22 スイチ奨学金



国際関係学部
4年 SYSKA RIZNA DEWI
薬学部
5年 林 昌奈

6/29 「静清信用金庫奨学生」奨学金授与式



経営情報学部
4年 小林 祐介
看護学部
3年 間片 美南

8/7 エンケイ財団奨学金



薬学部
5年 鈴木 光路
薬学部
5年 橋本 千尋
薬学部
6年 播摩 沙希

「東海澱粉国際交流奨学基金」授与式

6/23 薬食生命科学総合学府 博士前期2年 李 嬌
薬食生命科学総合学府 博士前期2年 白 歆
薬食生命科学総合学府 博士前期2年 羅 習文

薬学部
6年 村岡 英一
看護学研究科
修士2年 勝又 咲紀
国際関係学研究科
修士2年 FADLY HAMDJAH
国際関係学部
2年 KYI PHYU TUN
国際関係学部
3年 HUYNH SO VAN

地元企業等による本学学生への奨学金

名称	給付金額	支給期間	応募資格	27年度採用人数
(株) TOKAI ホールディングス	月額5万円	1年間	全学生(研究生、科目等履修生含む)	日本人3人、留学生2人
静岡ガス(株)	月額5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
(株)万城食品	月額5万円	1年間	中国からの留学生のうち学部1~2年生	1人
静清信用金庫	月額5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
公益信託東海澱粉国際交流奨学金	月額3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	3人
(株)天野回漕店	月額5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2~3年生	2人
スルガ奨学財団	月額5万円	2年間(3,4年次)	外国人留学生のうち学部2年生	1人
清水ロータリークラブ	5万円	一時金	外国人留学生のうち、他の奨学金を受給していない学部新入生	5人
株式会社静岡銀行	月額10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する留学生	2人
静岡県労働者福祉協議会	年額20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	2人
スイチ奨学金	月額5万円	1年間	学部2年生以上で授業料減免を受けている者	2人
エンケイ財団奨学金	月額2万円	1年間	学部生・大学院生・ASEAN 諸国からの留学生	8人

研究室訪問

Welcome to our laboratory.

NO.10

看護学部 基礎医学分野

井上健一郎 教授
三崎健太郎 助教

医学博士
環境免疫毒性学、呼吸器病学、アレルギー学
工学博士
環境毒性学



井上 健一郎 教授

環境と健康の密接な関わり

昨今、喘息や花粉症といったアレルギー疾患の有病率は先進国を中心として増加傾向にあります。アレルギー発症のメカニズムには様々な要因が絡み合っていますが、その一つとして、空気や水、土壌などの環境変化やストレス等が関与していると考えられています。看護学部基礎医学分野の井上健一郎教授と三崎健太郎助教は、こうした環境要因が生物に及ぼす影響について研究を行っています。「アレルギーは、体内に入った物質を異物として認識した際、白血球の一種であるリンパ球の過剰防衛反応と関連ネットワークの乱れにより発症するものです。これに対して、PM2.5といった大気汚染物質や、プラスチックのおもちゃなどに含まれる化学物質といった人為的な環境因子が及ぼす悪影響とそのメカニズムについて調べています。私の研究は人体の免疫応答を焦点としていますが、三崎助教は環境工学の観点から大気汚染物質等に含まれる成分ひとつひとつをより緻密に分析し、毒性を評価する研究を行っています。(井上教授)」

「これまで様々な主に有機化学物質、特に多環芳香族化合物の毒性影響(変異原性、DNA損傷性、レセプター活性など)を調べ、また環境中の活性成分探索の研究を行ってきました。これらの経験をアレルギー活性に影響する環境因子の解明につなげていきたいと考えています。「環境工学」は社会システム、化学・生物学、保健衛生、生態系管理など他分野にまたがる学問です。本学では、特に「人の安全・健康を衛る」



三崎 健太郎 助教

という視点で教育が進めていければと思っています。(三崎助教)」

より良い「医学教育」の探求

学部教育においては、看護を実践する上で基盤となる基礎医学科目を担当している、井上教授と三崎助教。臨床医として医療に携わる中で、看護師に「病気の本質」を理解してもらいたいという思いが強まり教育現場へ移ってきたという井上教授は、看護のケアについて「病態を把握し、常に起こりうる病状変化を予測できることが理想」と語ります。「例えば糖尿病の患者さんに対して、インスリン注射の適正な量や回数を考えるためには、糖尿病になった経緯や、合併症の有無や段階、他の薬剤の組み合わせなどにまで掘り下げて把握する必要があります。そうすれば仮に別の病状が出現した場合に、応用的且つ個別的な対処ができる。学生には病気そのものの成り立ちに関心を持ち、医学的理解を深めて欲しいと思います。」

井上教授は、基礎医学が看護師にとって不可欠な学習領域であると考えて一方で、限られた時間の中で教える厳しさも感じています。「医学部と異なり、看護学部の学生は病院実習などの専門教育を3、4年次に行うため、1、2年次から「病気」について学びながら、基礎看護学等も習得しなければなりません。『症候論』という1年次の授業を受け持っていますが、20歳前後の学生に病態を教えるは非常に難しいものがあります。だからこそ、知識をただ一方的に押し付けるのではなく、常に対話的講義を心がけ、

『覚える』ことより『理解する』ことに重点を置いた指導を目指しています。学生が消化不良を起こして学ぶことに拒否感を覚えないう、バランスを取りながらやっています」

看護職はコミュニケーションと慈愛

実際に、医学的理解により先を読む力を身につけることは、医師や薬剤師など他の専門職と連携してケアに当たるチーム医療体制において重要な意味を持っています。「看護師が医師と同等のレベルでディスカッションができれば、現場は強固な医療チームとなるでしょう。夏期集中講義では薬学部と連携したチーム医療演習を行っています。学内でこうした実習が組めるのは良い環境です。また、現場に出れば患者さんも様々な方がおられますから、総合大学という環境で交流を広げ、コミュニケーションスキルを磨くことも将来的には大いにプラスになります。」

医療の高度化により、看護職にはさらなる広範な知識と技術が求められる中で、看護師としての心構えを学んで欲しいとも話す井上教授。「結局のところ、医療は『優しさ』や『慈しみ』が全てだと、学生には説いていきたい。更には“病”という強敵と対峙していくため柔軟かつツツな心を身に付けて欲しいと思っていますし、本学の学生にはその資質があると思います。スペインにダビド・フェレルというテニス選手がいますが見習って欲しいです。(笑)」

Focus!



学生時代はテニス部で毎日汗を流した井上教授。研究室には当時の写真と、後輩から贈られた寄せ書きが大事に飾られています。「本学はテニスコートが充実していて、心惹かれます」

学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。

第25回 星・木苗杯を開催

今回で第25回となる食品栄養科学部恒例のテニス大会「星・木苗杯」が、平成27年7月11日(土)に開催されました。

実行委員 岡本憲典 鈴木理沙 堀田慎之介 山本純暉 吉田悠馬
(薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻博士前期1年)

当日はうだるような暑さでしたが、怪我人もなく最後まで試合を行うことができました。参加していただいた皆様のご協力に大変感謝しております。参加者28人中、男子では食品分析化学研究室の熊澤茂則教授、食品蛋白質工学研究室の岩崎悠太さん(修士2年)、女子では公衆衛生学研究室の稲井茅乃さん(学部4年)が優勝し、トロフィーと記念品が授与されました。試合中は皆笑顔に溢れ、とても楽しくプレイをしていたので、実行委員一同とても嬉しく思っております。教員や学生が一堂に会し、交流する機会は非常に貴重だと思うので、今後もこのような機会を大切に、人と人のつながりを深めていきたいです。



当日参加した学生と教員

地域・産学連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

共同開発

食品栄養科学部 新井映子教授

× (株)ウェルビーフードシステム グルテンフリー米粉パンミックス

食品栄養科学部の新井映子教授（調理科学研究室）が、介護施設の給食業務受託を手がける（株）ウェルビーフードシステムと、小麦アレルギーの人でも食べられるグルテンフリーの米粉パンミックスを共同開発し、静岡県内ドラッグストアチェーン杏林堂薬局の店舗で6月から販売が開始されました。



新井映子教授

「グルテンは小麦に含まれるタンパク質の一種で、世界的にも患者が増加している小麦アレルギーを引き起こす原因物質です。そのため、小麦アレルギーの方にも美味しいパンを召し上がっていただきたいという思いから、小麦粉の代わりにグルテンを含まない米粉を利用したパンミックス粉の開発に至りました。

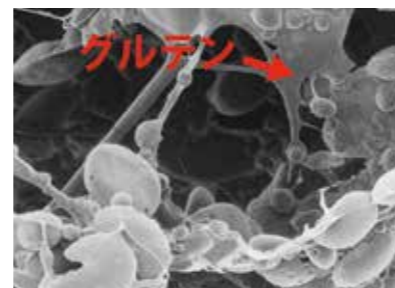
しかし、米粉でパン生地を作っても、粘弾性のあるグルテン（右下の写真の小麦粉生地に存在する膜上の組織）を含まないため、発酵中にイーストが発生した炭酸ガスが逃げず、パンをふっくらと焼き上げるのが難しく、従来の商品は、グルテンの代わりに食品添加物の増粘剤を加えて、生地の粘度を高めているものがほとんどです。しかし、増粘剤を添加したパンは保水性が高いため、菌切れのよいグルテンフリーパンにはなりません。」

穀類の新たな調理・加工技術の開発に取り組んできた新井教授は、米粉に大豆タンパクを加えることにより、小麦粉パンに近い膨化性と食感を持つグルテンフリーパンができることを見出しました。今回の商品では、この発見をもとに、大豆粉末に豆科植物のグアーを配合することで、膨化性のよいグルテンフリーパンを作ることができるブレミックス粉を実現しました。

「現在販売されているグルテンフリーパンは、冷凍で流通しているものがほとんどで

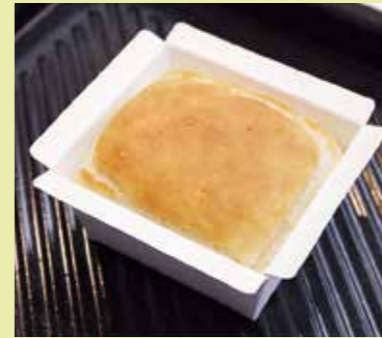
す。しかし、開発したミックス粉は、水とドライイーストを加えて混ぜるだけでパン生地が作れ、これをオープンで焼くことで、いつでも簡単に焼き立てのパンが食べられます。また、食品添加物を使用せず、乳製品や卵なども含まないので、小麦以外のアレルギーを持つ方も安心して食べることができ、家庭で気軽に米粉パン作りを楽しみたい方への需要にも応えた商品となりました。」

今回はグルテンフリーパンのためのミックス粉ですが、カップケーキやシフォンケーキなどグルテンフリースイーツのミックス粉も開発中と新井教授は話しています。



小麦粉パン生地の電子顕微鏡写真(5000倍)

グルテンフリー米粉パン ※ミックス粉使用



材料

米粉パン ミックス粉
・ミックス粉…1袋
・インスタントドライイースト(付属)…1袋
35℃位の温水…80ml

用意するもの

ボウル
ハンドミキサー 又は 泡立て器
パン型(専用パン型あり)



1. ボウルにミックス粉1袋とインスタントドライイースト1袋を入れ、よく混ぜ合わせる。温水80mlを入れ、粉と温水が混ざるように全体をゆっくりに混ぜ合わせる。その後、ハンドミキサーで約5分間かくはんする。

※時間をかけて混ぜ合わせることで膨らみがよくなります。泡立て器の場合はゆっくりに混ぜるので5分間しっかり混ぜましょう。



2. 専用型を使う場合は、折り線に沿って縁を外側に折り、生地をすべて入れる。(生地が型の高さの半分弱になる。)パン型を3cm位の高さからトントンと4～5回落とし、中の空気を抜く。



3. 室温で45分間置き、発酵させる。オープンに発酵機能がある場合は30℃で約45分間発酵。発酵後、すぐに焼けるようにオープンの予熱を180℃に入れておく。

※生地が型の8～9割位の高さまで膨らめば発酵完了です。



4. オープン用の天板にパン型をのせ、180℃のオープン(下段)で20～25分間焼く。焼き上がった後、オープンから出し粗熱がとれたら、パン型から外す。

※保存の際は1つずつラップし、直射日光を避け、冷暗所で保存。2日間おいしく食べられます。※すぐに食べない場合は、食べやすい大きさにカットし、冷凍保存します。食べる際に自然解凍してからオーブントースターであたためてください。

鳥田市と静岡県立大学との間で包括連携協定を締結

8月11日(火)、鳥田市民総合施設「プラザおほり」において、鳥田市と静岡県立大学との包括連携協定の締結式を行いました。これまでも鳥田市と静岡県立大学の間では、ワークライフバランスの推進に向けた事業や、健康に関する共同研究などを協働して実施してきました。

今後、様々な分野に関する地域の課題解決や地域活性化に向け、協力関係を一層進展させるため、包括連携協定を締結することとしました。

1. 包括連携協定締結式

染谷市長と鬼頭学長が協定書への署名を行い、今後の協力関係について確認を行いました。



静岡県立大学では、地域貢献を積極的に進め、地域課題の解決に協力をしてまいります。

2. 鬼頭学長講演会

締結式の後、市関係者を対象に「人口減少社会に対応した地域づくりと大学の役割～30年後を見据えた地域づくりのあり方～」をテーマとした講演会を実施し、約90名が参加しました。



図書館 だより

図書館の指定・選定・推薦と「リザーブブック」の取り組み

附属図書館では、学生に有益な図書館資料を整備し活用を促進することを目的に、図書館の指定・選定・推薦と「リザーブブック」の取り組みを行っています。

【指定図書】

受講に際し予備知識として読んでほしい図書、授業を行う際に学生に必要な図書、授業を受けて学生が抱いた学術的関心をさらに発展させるための図書です。毎年4・5月に図書館から本学の先生方に依頼し、指定していただいています。

指定図書は、「指定図書コーナー」に学部別に配架し、資料の貸出期間についてより多くの学生が利用できるような1週間としています。

【全学共通科目担当教員選定図書と学生用図書】

教員が全学共通科目を担当し授業を行う際に、学生の参考となる図書、学生が授業を受けて学習を進展させることができる図書です。学生の学習や生活に役立つ図書、一般教養向上のために必要な図書です。

選定図書及び学生用図書は一般書架に配架し、通常の貸出期間となっています。

【リザーブブック】

授業や実習、課題提出等に関連して学生に必読の図書として、試験出題範囲の図書を指定し館外貸出禁止（館内閲覧・複写は可）とすることで、より多くの学生が利用できるようにする仕組みです。

図書館に来て、ぜひ手に取ってご覧ください。学生の皆様のご利用を心よりお待ちしております。

私の一冊の本



編集者：中島義明・今田純雄
出版社：朝倉書店
発行年：1996年
請求記号：140.18/N76 2
ISBN：978-4254526325

私が学部3年生時に読んだ1冊です。現在、私は経営情報学部所属していますが、専門は心理学です。卒業論文では青年期女性の食行動に焦点を当て、社会的な食事環境が摂取量に及ぼす効果を検討しました。研究活動を進めるなかで、執筆者の先生方数名ともご縁ができました。私にとって思い出深い1冊で、今も研究室の本棚に大切に置いてあります。

ばらばらとページをめくると、結

紹介者 経営情報学部 講師 山崎 真理子
紹介図書 『人間行動学講座 第2巻 たべる一食行動の心理学』

果の図、実験条件を整理した表などが掲載され、動物実験からヒトを対象とした調査まで、様々な研究が紹介されています。食の心理学という、摂食障害（神経性大食症や神経性無食欲症など）の治療のイメージが強いかもしれませんが、病理の解明は非常に重要ですが、その手掛かりを得るには、普段の行動理解も実は必要です。行動の生起過程の謎に挑む基礎研究の成果が、臨床現場に課題解決の手掛かりをもたらし得るのです。

たとえば第10章では、食物の好みと嫌悪の形成過程について解説があります。

何かを食べて食あたりを起こし、それからその食べ物を口にするとなんとなく気持ち悪くなるため避けている。そういった経験はありませんか？この現象は、学習心理学の専門用語では、味覚嫌悪条件づけと呼ばれています。Matsuzawa & Hasegawa(1983)はニホンザルを対象に、味覚嫌悪条件づけを授業によって人工的に引き起こす実験を実施しました。その結果、食物の新奇性（つまり食経験の有無の違い）によっ

て、食あたり経験後の食物の回避行動が異なる可能性が示唆されています。

上記実験では、食あたり症状の誘発に、シクロオキシゲナーゼ阻害剤を用いました。有効な抗がん剤として、癌治療に用いられているようです。この抗がん剤は副作用のひとつとして、吐き気・嘔吐をもたらすことが指摘されています。抗がん剤治療中の患者さんが病院食を摂る際にこの薬品を投与された場合、味覚嫌悪条件づけが成立したらどのような結果が予測されるでしょうか？実際に、入院食を拒否するケースは報告されており、現場では問題解決が必要とされている課題のひとつといえるでしょう。

このように、臨床心理士には臨床心理学の知識はもちろん必要ですが、たとえば学習心理学など他領域の研究成果が、臨床現場の難題を紐解く重要な手掛かりを提供することがあります。他領域にも目を向けることが必要という点では、研究者にも臨床家にも共通して当てはまります。学びの大切さを、日々、感じています。

「食べるのが楽しくなるメニュー」を目指して

Q2. 大学生活での経験が今のお仕事に影響を与えたことはありますか？

食品学科（現：食品生命科学科）での4年間は、身近にある食品を科学的に考える面白さを学びました。様々な講義を聞く中で、「毎日食べるものなのに、なんて奥深いのだろう！」と感動したことを覚えています。学生時代に感じていた食品や食べることへのワクワクした気持ちを、少しでも多くのお客様へ届けたいという気持ちが、今のモチベーションになっています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

学部や部活動を通じて得た多くの出会いが刺激となり、今の自分の肥やしとなっています。学科が少人数制であったことで学生同士の仲も深まり、一体感が生まれていたと思います。学業にも前向きに取り組む雰囲気があり、切磋琢磨しながら授業や学生実験も充実して学ぶことができました。また、先生方との距離が近かったことで、気軽に授業の質問をしたり、休み時間にお話を聞いたり毎日楽しい4年間でした。

Q4. 今後の目標について教えてください。

大学時代には、食品に対して食品科学という視点で考えていたのですが、今は食品を通して食生活に貢献するという広い視野が必要になっています。今の目標は、楽しい外食の時間を過ごしてもらえそうな商品を得意先に提案することです。ただ食べるのではなく、『食べるのが楽しくなるメニュー』を考案できるよう、日々の営業活動を頑張っています。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

社会人になってあらためて大学生活を振り返ると、4年間の経験が、社会人になった自分の人間性を豊かにする大切な時間であったと実感しています。私自身、学生時代も社会人になった今でも大学の友人たちに励まされ、お互い良い刺激を与える存在になっています。学生の皆さん、学業、サークル、趣味、アルバイトと、何でも良いので興味を持っていることにどんどんチャレンジして下さい。

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

外食営業部に所属し、外食チェーン店向けの営業をしています。現在は大手ファーストフードチェーン店を担当し、自社製品を活用した新メニューの提案と開発業務を行っています。担当した商品が販売された際には、テレビCMが流れたり、インターネット等で話題に上がることもあり、身をもって成果を体感できるのが何よりも楽しいです。

栄養学の奥深さや面白さを教えてくれた恩師との出会い

て、実践的な疫学と統計学に触れることができた点です。また、研究室の輪読会を通じて、現在の座右の書である東京大学大学院佐々木敏教授の「わかりやすいEBNと栄養疫学」に出会うことができたのも大きな収穫でした。日本人の食事摂取基準や最新の文献を含めた栄養疫学の理解、日々の研究にも、大学・大学院での学びは役立っています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

学びの楽しさを教えてくれた尊敬できる先生方と出会えたことです。これは反省点でもあるのですが、私は学部2年生までは、授業以上にクラブ活動やアルバイトに精を出すような不真面目な学生で、学業と遊び、仕事のバランスが全く取れていませんでした。そんな私を変えてくれたのが、新井先生と市川先生、桑野先生の授業・実習でした。先生方の指導を通じて、栄養学の奥深さや面白さを再確認することができ、それ以降は、これまでの遅れを取り戻すように勉学にのめり込んでいきました。

Q4. 今後の目標について教えてください。

静岡県立大学の先生方が私にそうしてくれたように、人のやる気やポテンシャルを引き出せるような、学びのきっかけを与えられる教育者



お名前 青木 慎悟さん
卒業学部 大学院生活健康科学研究科 (2011年3月卒業)
勤務先 山梨学院短期大学

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

短期大学の教員として、栄養士養成に携わっています。担当科目は、臨床栄養学を中心とした講義・実験・実習で、ゼミ生に対する卒業研究の指導も行っています。授業以外にも、大学運営に関わる委員会活動や、糖尿病に関する調査研究、料理講習など様々なことに取り組んでいます。教えを通じて人の成長に関わることができる仕事なので、日々やりがいと責任を感じています。

Q2. 大学生活での経験が今のお仕事に影響を与えたことはありますか？

人類遺伝学研究室における研究活動を通じ



学生指導中の様子



フーマネラボの 体においしいヘルシーメニュー

～第二弾～

1食分の熱量・栄養価

エネルギー719 kcal
たんぱく質29.5 g
脂質27.2 g
炭水化物90.5 g
食塩3.8 g

*ライ麦パン6枚切 1枚(60g)を含む

献立のポイント

彩り鮮やかな秋の味覚が豊富で、食欲も増すこの季節。ハーブを上手に使って、一層おいしく作ってみてください。

作り方(4人分)

① 豚肉の香草焼き

豚ロース肉	(一人分約80g) × 4	衣	
食塩	(小)1/2	パン粉	(大)4
こしょう	少々	粉チーズ	(小)1/2
オリーブ油	(小)1	バジル	(小)1/2
		オレガノ	(小)1/2

- 1 豚肉に塩、こしょうで下味をつける。
- 2 余分な水分をペーパーで取り、豚肉にオリーブ油を塗り、混ぜ合わせた衣を表面につける。
- 3 180度のオーブンで20分焼く。

つけあわせ 野菜のホイル焼き

パプリカ	70 g	オリーブ油	(小)1
ブロッコリー	40 g	にんにく	1/2片
しめじ	80 g	食塩	(小)1/5
		こしょう	少々

- 1 パプリカ、ブロッコリーは食べやすい大きさに切り、しめじは石づきを取ってほぐす。
- 2 みじん切りにしたにんにくと、オリーブ油、塩、こしょうを混ぜ合わせ、①の野菜と和える。
- 3 アルミホイルで包み、豚肉と一緒にオーブンで焼く。

トマトソース

トマトホール缶	100 g	砂糖	(小)1
玉ねぎ	40 g	食塩	(小)1/5
にんにく	1/2片	こしょう	適量
オリーブ油	適量	ローリエ	1枚

- 1 玉ねぎとにんにくをみじん切りにする。
- 2 鍋にオリーブ油とにんにくを熱し、玉ねぎを加えてあめ色になるまで炒める。
- 3 トマトホール缶とローリエを加えて、30分ほど煮詰め、砂糖、塩、こしょうで味を調える。

② かぼちゃサラダ

かぼちゃ	260 g	食塩	(小)2/3
和え衣			
マヨネーズ	(小)5	プレーンヨーグルト	(大)3
レーズン	16g	スライスアーモンド	12 g
ナツメグ	少々		

- 1 かぼちゃの種を取り、ラップをしてレンジでやわらかくする。(600w、5分)
- 2 かぼちゃをつぶし、和え衣で和え、食塩で味を整え、冷蔵庫で冷やす。

③ コーンクリームスープ

クリームコーン缶	220 g	牛乳	110 ml
玉ねぎ	20 g	食塩	少々
バター	20 g	白こしょう	少々
粉末コンソメ	2 g	乾燥パセリ	少々
水	320 ml		
ローリエ	1枚		

- 1 玉ねぎをくし切りにする。
- 2 鍋でバターを熱し、玉ねぎを加えてサッと炒める。
- 3 ②にコンソメ、水、ローリエを加え、煮込み、コーン缶を入れてさらに煮込む。
- 4 ローリエを取り出し、牛乳を加えて塩・こしょうで味を調える。
- 5 器に盛り、パセリを散らす。

④ ソイミルクプリン アップルソース

調製豆乳	80 g	粉ゼラチン	2 g
牛乳	160 g	グラニュー糖	55 g
		水	160 ml
		りんごジャム	(大)2
		水	(大)1

- 1 深めの鍋にゼラチンとグラニュー糖を入れ、水を加えて浸しておく(15分以上)。
- 2 ①を弱火にかけ、煮溶かす。
- 3 別の鍋で豆乳と牛乳を合わせて沸騰しないように温め、②に加えて混ぜる。
- 4 器に注ぎ、冷蔵庫で冷やす。
- 5 ジャムと水をよく混ぜ合わせ、プリンの上にかける。

美味しい基本! ~ハーブ、スパイス~

- ・ローリエ
ソース、スープ、シチューなどの煮込み料理に。臭みを消し、芳香を与える万能ハーブです。
- ・バジル、オレガノ
ピザ、スパゲッティ、スープなどトマト料理に。トマトの豊かな香りを一層引き立てます。
- ・ナツメグ
ハンバーグなどのひき肉料理、ドーナツには必ず使います。独特の風味で料理に深みを!

※(大)=大さじ(15ml) (小)=小さじ(5ml)

教員人事

◆採用

佐々木 崇光	薬学部薬学科	講師	平成27年8月1日付
佐藤 秀行	薬学部薬学科	助教	

岩崎 祐子	「ふじのくに」みらい共育センター	特任助教	平成27年9月1日付
-------	------------------	------	------------

渡邊 順子	看護学部看護学科	教授	平成27年10月1日付
大原 裕也	食品栄養科学部食品生命科学科	助教	
岸本 真治	薬学部薬学科	特任助教	

◆退職

大内 仁志	薬学部薬学科	特任助教	平成27年5月31日付
-------	--------	------	-------------

中村 俊之	食品栄養科学部食品生命科学科	助教	平成27年6月30日付
吉川 悠子	食品栄養科学部食品生命科学科	助教	

◆退職

加藤 貴子	看護学部看護学科	助教	平成27年7月31日付
-------	----------	----	-------------

梅田 見名子	看護学部看護学科	助教	平成27年8月31日付
山本 剛	薬学部薬学科	特任助教	

戸敷 浩介	食品栄養科学部環境生命科学科	助教	平成27年9月30日付
-------	----------------	----	-------------

◆名誉教授の紹介

木苗 直秀	学長、副学長、教授(食品栄養科学部長、生活健康科学研究科長)	平成27年1月1日付
-------	--------------------------------	------------

木村 正人	教授(看護学部長)・学生部長	平成27年4月1日付
-------	----------------	------------

大島 寛史	教授(食品栄養科学部長)	平成27年6月1日付
-------	--------------	------------

教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

教員

受賞者名	所属	受賞名	受賞年月
伊藤 圭祐 助教	食品栄養科学部	2015年度日本農芸化学会大会 トピックス賞	2015年4月
浅川 倫宏 助教 金子 雪子 助教 清水 広介 講師	薬学部	平成27年度日本薬学会東海支部学術奨励賞	2015年7月
笠原 民子 講師	経営情報学部	第6回2014年度多国籍企業学会単行本部 学術研究奨励賞	2015年7月
江上 寛通 助教	薬学部	39回内藤コンファレンス 優秀発表者賞	2015年7月

学生

受賞者名	所属	受賞名	受賞年月
新宅 彩也 加文 井出 貴寛 康 田中 寛康 大 長尾 芳大 希 紅林 佑大 敏 鈴木 秀敏 文 船本 雅敏 文	薬食生命科学総合学府	第61回薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	2015年7月
森岡 亜望 俊 浜尾 望俊	薬学部		
望月 崇 廣	経営情報学部	情報処理学会「マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2015)シンポジウム」	2015年7月
戸田 美 沙	薬食生命科学総合学府	International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements (ICOBTE) 2015 ポスター講演賞	2015年7月

クラブ・サークル

受賞者名	受賞名	受賞年月
バレーボール部	関西薬学生連盟バレーボール大会 男子：優勝 女子：準優勝	2015年8月
剣道部	第69回関西薬学生連盟剣道大会 団体戦・新人戦：3位 (その他男女個人戦入賞)	
陸上競技部	第72回全日本歯薬獣医大学対抗陸上選手権大会 女子総合の部：優勝 女子トラックの部：優勝 男子総合の部：5位 (その他種目入賞)	
バドミントン部	第22回日本コメディカル学生バドミントン大会 男子シングルス：準優勝、3位 ミックスダブルス：ベスト16 第69回関西薬学生バドミントン大会 男子団体：優勝 女子団体：5位 (その他シングルス、ダブルス入賞)	

はばたき

●次号131号は2016年3月1日発行の予定です。

130号 2015年10月1日発行
発行元/静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL/054-264-5130 ■FAX/054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/

ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。



profile 食品栄養科学部フードマネジメント研究室

私たちのラボでは、栄養学の知見を実践に生かし、人々に望ましい食環境を提供するため、中食や外食企業に働きかけて、フードシステムを介した「食環境整備」の方法を探索しています。機能性を有

する食品の選択や組合せパターンを用いた安全な食事メニューを調製し、官能評価、ヒト介入試験による評価、商品としての消費者満足度の検討等を行っています。

卒業式袴の専門店 京都むらまつ

静岡県立大学

をご卒業予定の皆様



学校内 (谷田キャンパス) で、展示予約会を行ないます

check 1

式当日、学校内 (谷田校舎) で着付け・ヘアー・写真撮影が出来ます!

※グランシップまで送迎が有ります。

check 2

学校内 (谷田校舎) 展示予約会

場所: 上食堂1階ラウンジ

日時: 11時~17時

●H27年10月8日(木) 9日(金)

●H27年11月9日(月) 10日(火)

check 3

- グランシップでも展示会を行ないます。
- 短大生は当社ホームページをご覧ください。
- お店が静岡浅間通りにございます。詳しくは当社HPに掲載!

静岡の貸衣裳の老舗

京都むらまつ

場所: 静岡市葵区馬場町25-2
電話: 0120-144081 (フリーダイヤル)
054-252-5293 (代表)
営業: 9時30分~17時
(水曜定休・正月休み有)



HP検索 京都むらまつ

開催イベント告知

10/24[⊕]・25[⊕]

第29回 剣祭

◎谷田キャンパス

今年のテーマは「色祭満祭」。

毎年恒例のおけ屋敷や各種ステージ企画のほか、クラブ・サークル等による模擬店、ライブ&イベントが行われます。また、本学の教育・研究を体験できる模擬授業や、ゼミ・研究室の一般開放も。

一般のお客様にも楽しんでいただけるよう様々な企画をご用意してお待ちしています。

☎054-264-5075

✉tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp
http://tsurugi29th.tsurugi-web.jp/



11/7[⊕]・8[⊕]

第19回 橘花祭

◎小鹿キャンパス

短期大学部の大学祭です。今年のテーマは「Link Link Link」。各学科の展示や模擬店のほか、バンドや各種コンテストなどのライブステージを行います。またホームカミングデイや同窓会総会も併せて開催されます。

☎054-202-2603

http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/



12/17[⊕] 15:30~18:30

産・学・民・官の連携を 考えるつどい2015

◎谷田キャンパス

本学の研究成果や連携成果を地域・社会に発信するとともに、地域と本学教員・研究者との交流の場づくりとして開催します。

第1部

本学の産学連携における取り組みについて特別講演

第2部

研究成果発表・交流会
(同時開催:静岡食品環境フォーラム2015)

地域・産学連携推進室

☎054-264-5124

